

予報期間 9月14日から9月20日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 16日から17日は、高気圧が日本海から千島近海へ移動し、前線が日本の東から本州南岸付近にのびる。
- 18日から20日にかけて、高気圧が千島近海から千島の東へ移動し、日本付近には高気圧後面の湿った空気が流れ込む。熱帯低気圧が日本の南から沖縄の南へ進む。

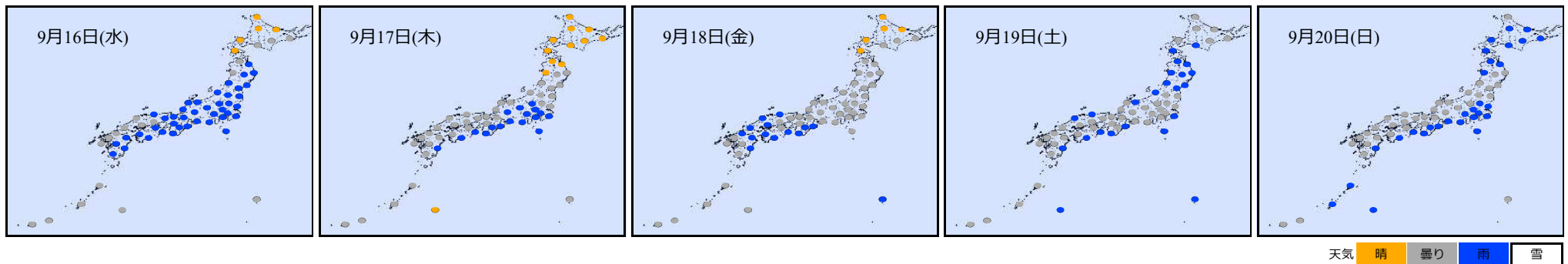
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日頃は、小笠原諸島では熱帯低気圧の発達程度等によっては大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

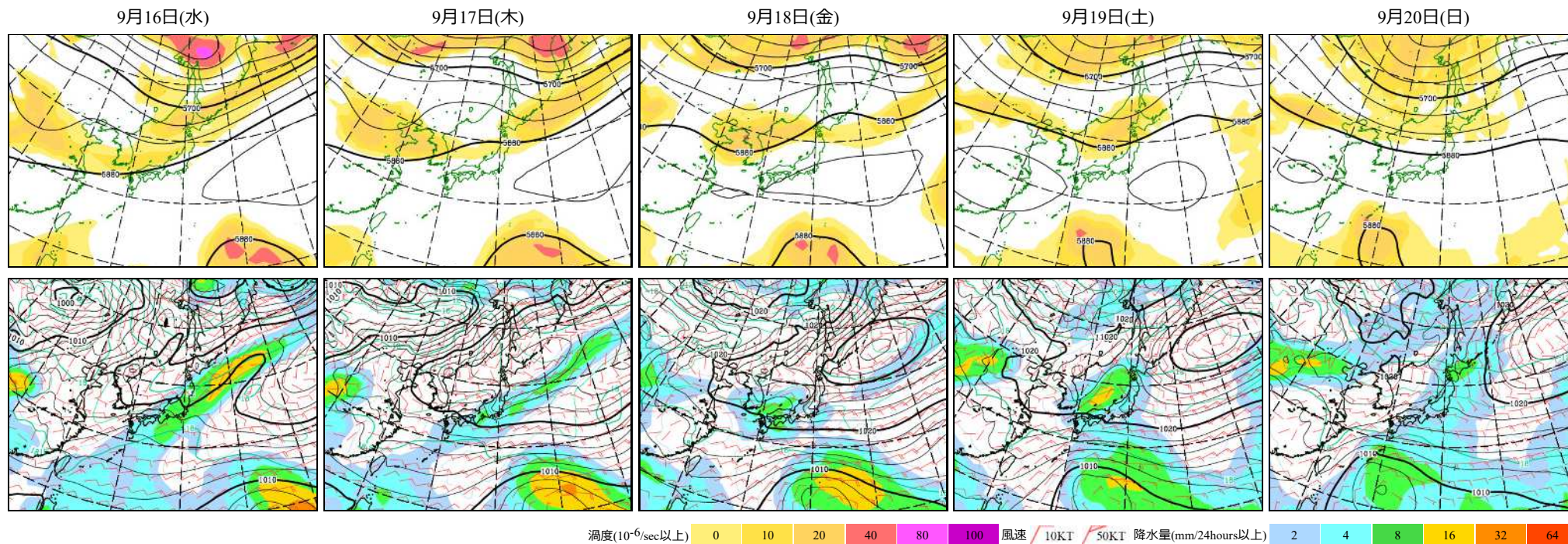
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

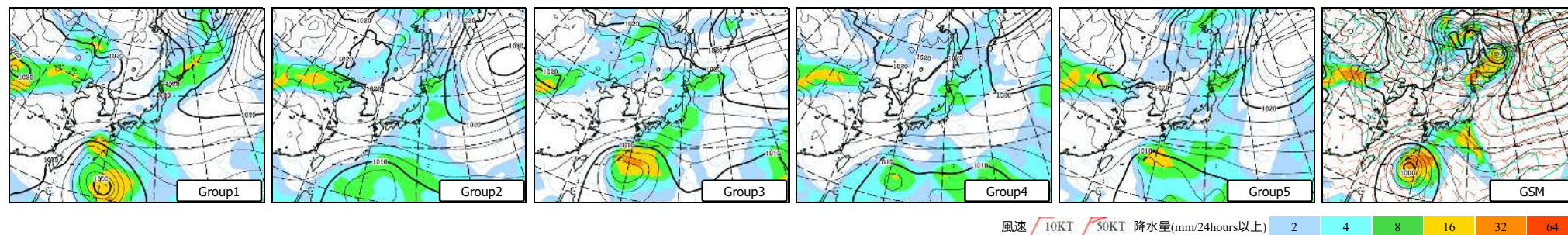


- 北海道地方は、16日から18日にかけては晴れまたは曇りの日が多い。その後は曇りや雨の降る日が多い。
- 東北地方と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、17日は晴れる所もある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、16日から20日にかけて中国東北区からカムチャツカの東へ進むリッジが明瞭となった。地上は、16日から20日にかけて日本海から千島の東へ移動する高気圧が強まった。日本の南から沖縄の南に進む熱帯低気圧が強まった。
- 熱帯低気圧は、日本モデルは海外モデルに比べて弱い、ENSには海外モデルと同程度に強まるメンバーも一部ある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基本とする。熱帯低気圧については海外モデルも参考にする。

今日から明日日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。